

3 つのポリシーに関するアセスメント報告書（2025 年度）

教学マネジメント委員会

1. ディプロマポリシー（DP）とカリキュラムポリシー（CP）の検証

（1）DP、CP の策定・公表・周知

1) DP・CP を策定している。

所見	・大学・短大及び大学院、各学部・学科で策定している。
----	----------------------------

2) DP は、各学部・学科の教育目標を具体的能力として適切に表現している。

所見	・2022 年 9 月の大学評議会での見直しにより、全体の階層構造は「建学の精神（教育理念）→使命→教育目的→教育目標→DP」となり、整理されている。 ・教育目標及び DP は、教育目的に記載した人材が持つべき具体的な能力を箇条書きで表現しており、内容の整合性は取れている。
----	--

3) CP は、DP と整合性がとれている。

所見	・各学部・学科の開講科目のナンバリングとカリキュラムマップを作成する過程でカリキュラムの体系性（DP との関係）と順次性（学年進行）を検証し、適切であることを確認している。
----	--

4) DP・CP を公表している。

所見	・DP・CP は、キャンパスガイド、大学案内、ウェブサイト等に掲載し、公表している。
----	--

5) DP・CP を在学生に周知している。

所見	・学生調査の認知度に関する質問では、「よく知っている」と「少し知っている」と回答したものの割合は、近年では 50%～60%台で推移している。 「建学の精神」 51.9→58.0→60.7→53.4→58.2% 「DP」 42.1→49.4→56.9→53.8%→56.2% 「CP」 53.4→60.7→64.1→58.6%→59.8%
----	---

（2）管理・運営体制

1) 教学マネジメント委員会を年 4 回開催している。

所見	・2025 年度は、5/1 に教学マネジメント委員会を開催し、アセスメントポリシーとアセスメント報告書を承認した。 ・アセスメントポリシーとアセスメント報告書を 9/4 の大学評議会で報告し、教授会を通じて全学に周知した。
----	--

2) 履修単位上限（キャップ制）を設定している。

所見	・大学では、履修登録単位の上限設定及び GPA 値による上限の緩和を設定し、キャンパスガイドに記載して学生に周知している。 ・短大では、キャップ制度について検討した結果、上限設定を導入しないことを決めている。
----	---

3) GPA を履修指導に活用している。

所見	・GPA の活用についてキャンパスガイドに記載して学生に周知している。 ・教務委員会において「GPA に基づいた学生指導について」を作成（2020 年度）し、GPA に基づいた学生指導の実施状況を把握するために学科ごとに「指導実施報告書」を作成し、教務委員会で集約している。
----	--

(3) 教育の実施

1) 全開講科目のシラバスを作成し、公表している。

所見	・毎年度、シラバス作成要領を作成し、実務経験、毎回の授業担当者、ナンバリング、予習復習の時間など記載が義務付けられている項目の記載方法に加えて、自学自習を促し、授業外学修時間を増やす工夫例を記載して周知している。 ・作成したシラバスは、ウェブサイトで公表している。
----	---

2) シラバスの内容をチェックし、改善のための指導を行っている。

所見	・学部長・学科長・教務委員によるシラバスチェックを実施している。不備のあるシラバスについては、学部長から改善の指導を行っている。
----	--

3) 教員は、シラバスに基づいて授業を実施している。

所見	・学生調査では、「授業はシラバスに沿って行われている」という質問に対して、「とてもそう思う」または「そう思う」と回答した学生の割合は近年 90%台を維持している (91.6→94.9→96.0→93.5%→94.4%)。 ・「シラバスは予習・復習の参考になっている」という質問に対して、「とてもそう思う」または「そう思う」と回答した学生の割合は近年 80%台を維持している (78.2→81.5→85.1→82.8%→86.6%)。
----	---

4) 教員は、適切な授業改善の手立てを実施している。

所見	・学生調査「授業の実施状況に関する質問」で「とてもそう思う」または「そう思う」と回答した者の割合は「授業中に質問しやすい雰囲気づくりをしている」のみ 70%台に留まっている。 88.2% 「学生が理解しやすい授業方法を工夫している」 86.6% 「レポートなどの提出物に対してコメントをつけて返却している」 85.0% 「学生の理解度に合わせた授業を行っている」 80.7% 「学生の意見を授業改善に取り入れている」 77.8% 「授業中に質問しやすい雰囲気づくりをしている」
アセスメント	・授業の準備、質問への対応など教員の教育活動に対する評価が高い反面、質問など授業への積極的参加に対する評価が低い。 ・文部科学省実施の「全国学生調査（第4回試行実施：2024年度）」との比較では、全国調査の「理解がしやすいような教え方の工夫（90%）」に対し、本学は 88.2%であり、若干低い結果となった。 ・一方で、全国調査の「適切なコメントが付された提出物の返却（54%）」に対し本学は「86.6%」がコメント付きの提出物を返却されている。その他の設問への解答を見ても、教員は、学生に対して細やかな配慮をもって向きあっていると見える。
アクション	・学生の理解を促す教授方法とともに、授業への学生の積極的参加を促進する工夫を授業に取り入れる。

(4) 主観的学修成果（到達度、満足度）

1) 学生は、主体的に学修している。

所見	・学生調査「積極性・主体的学修行動に関する質問」で「とてもそう思う」または「そう思う」と回答した者の割合 87.9% 「授業のグループワークやディスカッションには、積極的に参加する」 63.4% 「疑問に思ったことは、授業後、教員に質問に行く」 50.0% 「疑問に思ったことは、授業中に質問する」
アセスメント	・授業中に質問する学生が少ない。
アクション	・授業への学生の積極的参加を促進する工夫を授業に取り入れる。

2) 学生は、十分な学修時間を確保している。

所見	- 学修時間 1日当たり 81.0%「授業の予習・復習のための時間」1～2時間 39.0%「課題やレポート作成に費やした時間」3～5時間 69.6%「資格・免許取得のための学修時間」は1～2時間
アセスメント	学修時間は学年によって異なり、最終学年のみ学修時間が長くなる傾向がみられる。資格試験や就職活動のために前向きに取り組んでいるものとみられる。
アクション	引き続き、授業外の学修時間を増やす教育方法を工夫する。

3) 学生は、自己の成長を実感している。

所見	・学生調査「主観的学修成果に関する質問」では、大学・短大の DP に関連した質問を設定した。各区分は以下の通り。		
	大学の DP 区分	短大の DP 区分	学生調査の質問項目
	人への関心と学問の理解	知識・理解	①「幅広い知識技術」 ②「専門分野の知識・技術」
	柔軟な思考と表現力	汎用的技能	③「物事を論理的に考える習慣」 ④「物事を様々な視点から考える習慣」 ⑤「多様な知識・技術を総合して判断する力」 ⑥「自分の意見をわかりやすく伝える力」 ⑦「相手の意見を丁寧に聞く態度」
	知識の応用力と判断力	総合的な学修経験と創造的思考力	⑧「現状を分析し、問題点や課題を発見する力」 ⑨「問題が生じたときに、適切に対処する力」
	未知の領域に挑む意欲	態度・志向性	⑩「経験のないことでも積極的に挑戦する態度」
	地域に貢献する積極的態度		⑪「積極的に人とのかかわる態度」 ⑫「将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度」
「かなり身に付いた」または「ある程度身に付いた」と回答した者の割合が多い項目から順に下記の通りとなっている。 93.8% ⑦「相手の意見を丁寧に聞く態度」 91.5% ②「専門分野の知識・技術」 90.5% ④「物事を様々な視点から考える習慣」 89.5% ①「幅広い知識・技術」 86.6% ⑪「積極的に人とのかかわる態度」 86.3% ⑩「経験のないことでも積極的に挑戦する態度」 85.3% ⑤「多様な知識・技術を総合して判断する力」 84.0% ⑧「現状を分析し、問題点や課題を発見する力」 84.0% ③「物事を論理的に考える習慣」 84.0% ⑫「将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度」 84.0% ⑨「問題が生じたときに、適切に対処する力」 76.5% ⑥「自分の意見をわかりやすく伝える力」			
アセスメント	・昨年度は 83% 台の項目をアセスメントとアクションの対象にしているが、今年度は 84% 以上の項目が大幅に増加している。(全ての項目が前年度よりも上昇している)		
	・物事を論理的に考える習慣 83.8→84.0		
	・問題が生じたときに、適切に対処する力 83.4→84.0		
	・将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度 83.5→84.0		
	・前出の全国調査結果の「専門分野に関する知識・理解 (89%)」に対し、本学「専		

	門分野の知識・技術(91.5%)」の方がやや上回っている結果となった。実学重視の理念に則った教育への評価であると考えられる。
アクション	・DP の「柔軟な思考と表現力」、「知識の応用力と判断力」、「地域に貢献する積極的態度」に該当する能力を育成する授業の工夫を行う。

4) 学生は、学修以外の学習環境に満足している。

所見	・学生調査「満足度に関する質問」で「とても満足している」または「ある程度満足している」と回答した者の割合はいずれも 80%以上であった。 92.2% 「保健室・心理相談など相談サービス」 91.5% 「本学で学び身に付けたこと」 89.9% 「教員と学生の一般的な人間関係」 88.9% 「教務課の窓口対応」 88.6% 「学生課・キャリアサポートセンターの窓口対応」 87.3% 「本学での学生生活全般」
----	---

(5) 客観的学修成果

1) 学生は、DP で想定している能力を身に付けている。

所見	・学科レベルでの学修成果の把握・分析 心理学：自己評価式質問紙による学修成果の把握・分析を行っている。 看護学科：DP の到達度に関するアンケート調査による学修成果の把握・分析を行っている。 保育学科：学修成果評価シートを用いて DP ごとの GPA の平均値を算出し、学修成果を把握・分析を行っている。 食物栄養学科：調理技術、授業評価アンケート、GPA などを活用し、DP に沿った主観的及び客観的学修成果の把握・分析を行っている。 ・全学レベルでの卒業生・就職先調査の実施 令和 6 年度卒業生調査：令和 6 年度卒業予定者及び令和 4、5 年度卒業生対象 令和 6 年度就職先調査：2021 年度・2022 年度・2023 年度の卒業生が 1 名以上在籍している事業所対象 調査方法：アンケート調査 上記調査は、いずれも令和 7 年 2 月実施、集計・分析を令和 7 年度に行い、令和 7 年 7 月就職委員会で報告。
----	--

4. アドミッションポリシー (AP) の検証

(1) AP の策定・公表

1) AP は、DP に記載している能力を身に付ける前提として求める学修成果を明示している。

所見	・求める学修成果を明示している。
----	------------------

2) 学修成果は、「学力の 3 要素」に対応している。

所見	・「学力の 3 要素」に対応している。
----	---------------------

3) AP を公表している。

所見	・ウェブサイト、入学者募集要項、大学案内、キャンパスガイド等に記載し、公表している。
----	--

(2) 選抜方法

1) 多様な背景を持つ学生を受け入れる入試区分を設けている。

所見	・2021 年度入試より、学校推薦型入試 (指定校、公募制)、一般選抜入試、総合型選抜入試、社会人特別入試、帰国子女入試、外国人入試などの入試区分を設け、多様な背景をもつ学生の受け入れに対応している。 ・短大では専門実践教育訓練給付制度の教育訓練施設として指定され、社会人学生
----	---

	を受け入れている。
--	-----------

2) 各入試区分の選抜方法は、「学力の3要素」を多面的に評価する選考方法を採用している。

所見	・選抜方法として学力試験、大学入学共通テスト、口頭試問、小論文、プレゼンテーション、面接、調査書などを採用し、入試区分ごとにこれらの方法を組み合わせて「学力の3要素」を総合的に評価している。 ・2021年度入学者募集要項より、各入試区分における選抜方法の組み合わせと「学力の3要素」の関係を一覧表にして掲載している。
----	---

(3) 採点基準

1) 採点基準（ルーブリックなど）を作成している。

所見	・2021年度入試より、全学科で採点基準をあらかじめ作成している。
----	-----------------------------------

2) 採点基準は、各選考方法に対応する学力の到達度（学修成果）を評価するものになっている。

所見	・プレゼンテーションの評価基準は、高校生活で学んだことは何か、高校生活で学んだことを入学後どのように活かすかについて発表し、その内容、発表方法、表現力を評価するものになっている。 ・面接の評価基準は、志望動機、積極性、協調性、責任感、表現力、コミュニケーション能力など観点を設定して質問項目を設定している。
----	--

(4) 入学前教育

1) すべての入試区分で、入学予定者に対して入学前教育を実施している。

所見	・全学科、すべての入試区分で入学前教育を実施している。 ・教務委員会において、各学科の入学前教育の実施内容、課題の提出・指導状況、工夫、問題点、成果、今後の改善案などを集約している。
----	--

以上